

第2回由利本荘・にかほ地域医療構想調整会議 議事要旨

- 1 日時 令和8年3月9日（月） 午後6時から午後8時まで
- 2 場所 オンライン会議
- 3 出席委員 委員17名中15名出席（代理出席者を含む）

氏名	役職等	氏名	役職等
松田 武文	由利本荘医師会長	奈良 正之	国立病院機構 あきた病院長
軽部 彰宏	由利組合総合病院長	海法 恒男	由利本荘医師会病院長
菅原 和彦	菅原病院長	鈴木 泰	本荘第一病院長
曾我 正人	象潟病院長	佐藤 麻美子	佐藤病院長
鈴木 直之	由利本荘歯科医師会副会長（代理出席）	菅井 勝也	秋田県薬剤師会本荘由利支部長
山下 佳子	秋田県看護協会由利本荘・にかほ地区	佐藤 大	特別養護老人ホーム「あじさいの郷」施設長
佐藤 さおり	にかほ市地域包括支援センター長	佐藤 尚子	由利本荘市健康福祉部健康づくり課長
斎藤 晴美	にかほ市市民福祉部健康推進課長		

4 議事等

(1) 報告事項

① 年末年始における救急医療の実施状況について

【事務局】

（資料により説明）

【由利組合総合病院長】

- ・ 年末年始は想像していたよりも患者数は少なかった状況ではなかったのが安心できたが、それは全く予想できないようなことであり、もしピークがずれて混雑が年末年始にあればかなりパニック的な状況になったのではないかと考えている。
- ・ 年末年始の救急外来は例年混むので、県の方から医療のかかり方を周知していただき、そして各医療圏で軽症者の相談対応するような窓口を作っていくのがよいと考えている。
- ・ 公立病院は市や医師会と一緒に年末年始の対策を実施しているが、それ以外の公立病院が存在しないので、県が主導して、急性期の患者を年末年始きちんと診られるように総合病院で体制を作っていくのが重要だと思う。

② 令和7年度外来機能報告について

【事務局】

（資料により説明）

【由利本荘医師会長】

- ・ このデータを見る限りだと、由利組合総合病院は基準を満たしているが、おそらく理由があって手を挙げていないと思うので、少し教えていただきたい。

【由利組合総合病院長】

- ・この紹介受診重点医療機関になることは、収益に関しては決して悪い話ではないが、一度そちらの方向性を見据えて、1年程、紹介の方以外は診察しないという方針を試みたが、地域の方や関係者からも色々と批判が出た。
- ・病院としては外来を縮小しながら入院の方に力を入れていくという方向転換をしたかったが、やはりまだこの地域には馴染まないと判断し、手上げはまだ時期尚早であろうと考えて見送っている。

③現地域医療構想の振り返りについて

【事務局】

(資料により説明)

【由利組合総合病院長】

- ・地域での医療連携というのは絶対に避けて通れないが、それが進まない原因の1つとしては、県の病院は厚生連が基幹病院になっているということ、そして各地方に公立病院が非常に少ないことが挙げられる。
- ・厚生連は農協法という壁があって、その壁をうまくクリアしていかないと連携が進んでいかないという状況が分かった。
- ・その農協法という建て付けを、県からこういう風にすれば医療連携は進みますといった提案から、法的な問題をうまく解決してもらうことが重要。
- ・それから各病院に利害があると思うので、県が主体となってやっていただくのが旗振りということだと考えている。
- ・コンサルや、病院長同士、県が机を並べて、顔を合わせながら話をしていくというところまで進んでいかないと連携はうまくいかないと思う。

【県医務薬事課】

- ・農協法の件については、県の方で詳しく把握していなかったのが、研究させていただきたいと思う。
- ・ここでいう旗振り役の意味としては、県がこの地域の医療の将来像についての複数案をまず提示して議論をリードしていきたいというような意味合いである。

(2)協議事項

①急性期拠点病院を中心とした複数の役割分担案について

【事務局】

(資料により説明)

【由利組合総合病院長】

- ・客観的なデータを県から示していただいたので、当院が急性期拠点病院を担うということに関しては、病院としても、地域の病院に関わる方にとっても賛成していただける

話だとは思う。

- ・ただ、当院は立地が少し微妙で、医療圏に関しても秋田市と一緒にいうところがあり、この先人口が減少していった場合、本当に急性期の治療をしなければならないような患者だけをうちで引き受けるといった方向になると思っている。
- ・例えば、にかほ市から来る患者の心筋梗塞や脳卒中、外傷患者を最初に治療する役割に変わっていくと思う。
- ・人口が減っていけば、がんの患者も減るので、待てる急性期であるがん手術は、秋田市の病院に将来的には集約されていくのかなと考えており、これは県全体で言えること。
- ・秋田市に集約されるまでに間、がんも含めて急性期の治療はこの地区でやっていかなければならないということは理解しているが、問題になるのは経営的なところである。
- ・今は厚生連の中でやりくりはしているが、患者が減少する中で、設備の維持や新しい設備の導入は非常に難しい状況になると思うので、行政から力を借りなければならない。
- ・建物も老朽化していて、修復にはコストがかかる。
- ・これも厚生連の中でなんとか賄っているが、おそらく3年後はやっていけないのではと思う。
- ・当院が急性期の拠点病院になるのは問題ないが、そのためには、他の病院の協力も当然必要だし、先ほど指摘された消化器系の手術に関しては本荘第一病院と当院とほぼ同数の手術件数となっているので、拠点病院とするのであればやはりそういった問題も解決しなければならないと思う。
- ・また、人材に関して、医師の数は今のところは問題が、看護師の不足が非常に深刻。
- ・厚生連全体の問題なのだが看護師の養成について、厚生連で年間に必要な看護師は100人を超えるが、実際に充足されるのは60人程度ということになっているので、今の医療制度からいくと看護師が減少すると、7対1の急性期の病院というのは維持できなくなり、ギリギリのところまで来ている。
- ・20代、30代の看護師の離職が一番多いので、これが20年後、30年後に確実に秋田県に降りかかってくる問題なので、看護師がいなくて医療ができなくなるという状況もあり得ると思う。離職防止、看護師確保、これは医師確保よりも死活問題だと思うので、この点を県で力になっていただきたいと思う。
- ・あとは、拠点病院と後方支援病院の間で仕事の分担についてどういう風にしていくかということ客観的な視点で行政のほか、医師会からも提示いただきたい。

【本荘第一病院長】

- ・急性期拠点病院を由利組合総合病院にお願いするのは本当に必要なことだと思う。
- ・現状として、当院で手に負えないところは由利組合総合病院にお願いし、由利組合総合病院で大変で患者を受けられない場合はこちらで受けている。
- ・当院の立場からすれば、今のところ、連携についてはそれなりにうまくいっていると思っている。

【あきた病院長】

・当院は慢性期医療の中の重症心身と神経難病等の専門的な慢性期医療を担わせていただくということになると思う。

【由利本荘医師会病院長】

・秋田県はほとんど厚生連に頼ってきた歴史があると思う。
・病院が右肩上がりで拡大していく時はいいが、人口減少で、ものすごい勢いで落ちている時に、民間で解決しようというのは無理な話だと思う。
・この急激な人口減少に対してどのくらいのスピードで医療が崩壊していくのかを誰も把握できていないと思う。
・先ほど軽部院長が3年という数字を出したが、近い将来におそらく目の前の病院が崩壊していくので、速やかに分析、提案というところで、よりスピード感をもって進めてほしい。

【佐藤病院長】

・この役割分担に関して、当院が高齢者救急や在宅医療等の連携機能を持って仕事していくというのはやぶさかではない状態である。
・本当に危機的なものを感じていて、どう連携していくかを人のやり取りを含めて、細かいところまで話をスピード感をもって、していきたいと考えている。

【菅原病院長】

・病院としてのハード面、人員の問題、特に精神科は看護師や補助者だけでなく医師の問題もかなり強くて、そういう面も課題である。
・精神科病院は急性期から慢性期まで本来は全部網羅すべきと思っているので、できる限りその形を継続はしていきたい。

【象潟病院長】

・精神科として急性期から慢性期まで一貫した流れでやるというのが普通だが、それが難しくなっているから、コンパクトにできることをやっていく。

【由利本荘医師会長】

・3病院いずれも、老朽化が非常に激しく、看護師含めたコメディカルの確保が大変だと思う。
・今後のことを考えると、地域医療連携推進法人で連携するだけで本当に対応できるのかどうかが気になる。連携という形よりも全部がまとまって地域医療センターのようなものでもある方が安心かと思う。
・今どこの病院も病床削減でどんどん減らしている最中にあるが、感染症の拡大時等に、病床を減らして今後の状況に対応できるのか気になる。
・中核を作るとなった場合の財源は県なり国が対応してくれる状況にあるのか、県はど

のように考えているのかが知りたいところである。

・病院の機能分担を考える上でも、由利組合総合病院が2040年にどこまでの医療を提供すべきなのかが決まれば、次の病院がどういう役目を担うべきか見えてくると思ったので、見込みがあれば次の会議等で教えてもらえれば良いと思った。

・人口動態からして、各機能別の病床が2040年にどのくらい必要かといったデータまで見せてもらえれば良いと思った。

【県医務薬事課】

・皆さんのおっしゃる通り2040年となると15年先なので、その頃の医療需要等を踏まえると、手術等も秋田市でというような状況もしかしたらあり得るのかと思ったので、県としては今回この3つの案を示したところだが、由利組合総合病院が急性期拠点病院を担わない形も想定した分析も付け加えていいのかなと思ったところなので、そのことについて何か意見いただければと思っている。

【由利組合総合病院長】

・がん手術などの、急性期を待てる急性期と待てない急性期を分けて、そのうち、待てる急性期は当院で担わなくてもいいという時代が来るのではないかと思う。

・当院が待てる急性期を担わなくなるまでの過渡期までに、我々が病院として維持できるかを考えていただきたい。

・急性期イコール赤字であり、利益の出ない診療科は非常に病院にとって負担である。

・常勤医がいらないということは入院させることができないので、そういった診療科は閉鎖して秋田市に行ってもらおうといったことをやっていかなければ病院の経営は良くなっていかないと思う。

・周産期と小児医療も病院の経営の足を引っ張るような状況になっている。

・産科医療をやるために、助産師、設備、緊急手術の準備を全て備えていないと産科医療はできない。

・子供の数が減少していけば小児科の入院は非常に少なくなる一方で、小児科の医師は確保し続けなければならない。

・そういった利益の出ない診療科を持っていても、辞めるわけにはいかないのにそこに、手厚い行政の援助がなければ経営的には厳しい。

・厚生連に関しては中長期計画を出しているが、3年後は病院を全て持っていれば赤字になる。赤字になったらおそらくJAの上部組織からどうするだということを確実に迫ってくるのでその時に答えを出さなければならない。

・それまでに県が方向性や支援に関する結論を出してくれれば、厚生連は維持できるが、そうでない場合はおそらくどうにもならないような状況になる。

・その時に地域でどうするかと言っても遅いということを十分知っていただきたい。

【由利本荘歯科医師会副会長】

・歯科処置や我々開業医で手に負えない口腔領域の疾患は、由利組合総合病院にお世話

になっているので、この先もお願いしたい。

【県薬剤師会本荘由利支部長】

- ・各病院の建物がだいぶ経っており、その部分に関して具体的な支援の提示がないと連携が取れたとしても、持つのかなというところがある。
- ・この急性期拠点となった病院の一般外来の受付等に関して、外来を制限することとなる場合は、周知をどうするか、早めにやらなければ、結構厳しくなると思う。

【秋田県看護協会由利本荘・にかほ地区】

- ・今後の地域医療を守っていくために機能を分担していくことが必要だが、本当にこの由利本荘地区に住んでいる住民が近隣の医療機関で治療を受けられなくなってしまうのではという不安がとても大きい。
- ・高齢の一人暮らしが多く、その方たちがこの地区では受けられないから秋田市に行つてと言われた時に簡単に行ける状況でもないと思うので、そのことも踏まえて考えていただきたいと強く感じている。
- ・地域の人困らないようにこの地域の医療を維持していかなければいけない。ここで受けられなくなるとさらに人口減少が進んでいのではと少し不安に感じた。

【特別養護老人ホーム施設長】

- ・統合後のこうなるのではという予測も大事だとは思いますが、もう少しスピード感を持って前に進むことが大事だと感じる。
- ・耐用年数を考えていたら議論が前にも進まないと思うので、地域に必要なこの医療が空洞化とならないように、話が進んでいってもらえばよいと思う。

【にかほ市地域包括支援センター長】

- ・市にとっては分析結果をもとに財政面であつたり色々な話の土台に立てるということがあるので、今後県の方で緻密な分析をされることにとても期待をしている。

【由利本荘市】

- ・地域の人困らないようにアクセスを検討したり、市としての支援をやっていかなければいけないなと感じている。
- ・予算要求はかなりシビアになっているので、早めに見通しを立てて要求などができるように分析をしていただければと思う。

【にかほ市】

- ・病院機能の役割分担について、議論の進捗を市民へ伝えていくことだったり、市民が受診するためにどのように受診していくのが効率的なのか、医療のかかり方を市民と情報共有する立場は市で担っていくと思っているので何ができるかということを考えていきたい。

【由利本荘医師会長】

- ・急性期医療の患者はどんどん減っていく一方で、高齢者救急に関しては 2040 年にかけてもほぼ変わらないというデータがあったと思うが、あまりこの会でその高齢者救急を今後どうするかという話あまり出ていない。
- ・それに絡めて今後は介護をどうするかといった議論も必要になってくると思っている。
- ・これらについて、県の方で考えられているか。

【県医務薬事課】

- ・高齢者救急については本当に手術が必要な危険なものから手術も必要としないような救急まで幅広くある。
- ・医療機関の役割分担の中でそれを急性期拠点病院が受けるのか高齢者救急を担う病院が受けるのかというのは症状等で変わってくるものだと思います、各医療機関の機能を決めた後の個別の話になると思うので、まずは医療機関の機能の役割分担というところを中心に話をさせていただいた。

【由利組合総合病院長】

- ・この由利本荘地区は面積が非常に広くて高齢者が多いところなので、Web を利用した遠隔診療とか医療 MaaS の活用などはとても重要なかなと思う。
- ・市民の安心のためにも、こういった少し先進的な医療をやるように県で働きかけや補助をしていただいた方が医療としては非常にやりやすくなる。

【伊藤アドバイザー】

- ・由利組合総合病院を急性期拠点病院にすることについて、軽部院長から現時点ではいいでしょうという話だったのでそれでよろしいのかなと思う。
- ・経営に関しては厚生連の問題があるし先ほど農協法という壁があるということであったが、そこはどうかしてクリアするしかない。
- ・急性期拠点病院のバックアップ体制をどうするかを検討するに当たり、高齢者の下り搬送を活用した連携をやっていたらいいと思う。